

氏名	廣松 勲 (准教授)
こんな研究をしています	<p>①フランコフォニー文学研究 (カリブ海域諸島とカナダ・ケベック州) フランス共和国以外の地域で生産された、フランス語で書かれた文学作品 (特に小説) を主たる分析対象として研究を進めています。これまで「植民地以後のメランコリー」や「トランスカルチャー」といった観点から分析を進めてきましたが、現在は「第三世界フェミニズム」や「インターセクショナルリティ」といった観点にも関心があります。</p> <p>②地域研究 (同上) 上記の文学研究を行うにあたり、特に各地域の社会文化的背景を理解するために、地域研究的な観点から調査も行っています。</p>
こんな成果を挙げています	<p>①評論：「『たかが世界の終わり』における映像技法：ケベック映画としての／からの出立」『ユリイカ』特集「グザヴィエ・ドラン」, 2020年4月号, 青土社, 2020年, 頁数未定.</p> <p>②共訳：ピエール・ヌヴェー, 「ケベックと北米大陸のフランコフォニー (ニューイングランド、アカディア、フランス語圏オンタリオ)」(廣松勲・小松祐子共訳), 『ケベック研究』第10号, 日本ケベック学会, 2018年, 93-108頁.</p> <p>③評論：「第5章 エドゥアール・グリッサン (1928-2011) : 〈関係〉の詩学から全一世界へ」, 『国際社会人叢書2: 〈境界〉を生きる思想家たち』, 榎木玲子/法政大学国際文化学部編, 法政大学出版局, 2016年, 105-129頁.</p> <p>④論文：「現代ケベック文学の諸潮流：移民文学と新郷土文学を中心に」, 『Nord-Est』第7・8号合併号, 日本フランス語フランス文学会東北支部会, 2015年, 84-105頁.</p> <p>⑤編集・翻訳・エッセイ・書評：日本フランス語圏文学研究会会報『Archipels francophones : bulletin du Cercle d'etudes japonaises des lettres francophones』第5号の編集/巻頭エッセイおよびインタビューの翻訳/エッセイ・書評の執筆, 2015年8月4日.</p> <p>⑥評論：「文学研究における社会」, 『総合政策学のための思想研究』第1号, 慶應義塾大学総合政策学部・堀茂樹研究会, 2013年, 24-29頁.</p> <p>⑦論文：「パトリック・シャモワゾーにおけるトランスカルチャー：記憶の伝達から伝達の記憶へ」, 『Nord-Est』第6号, 日本フランス語フランス文学会東北支部, 2013年, 78-96頁.</p> <p>⑧博士論文：《Melancolie postcoloniale : relecture de la memoire collective et du lieu d'appartenance identitaire chez Emile Ollivier et Patrick Chamoiseau》, these doctorale presentee a l'Universite de Montreal, Directrice : Lise Gauvin, 2012.</p> <p>⑨論文：《La correspondance avec les editeurs : histoire editoriale des oeuvres d'Emile Ollivier》, dans <i>Emile Ollivier : un destin exemplaire</i> (dir. par Lise Gauvin), Memoire d'encier, 2012, pp. 119-142.</p> <p>⑩論文：「Rememoration creative de Patrick Chamoiseau : La description du 《non-espace》 dans <i>Un Dimanche au Cachot</i>」, 『フランス語フランス文学研究』第95号, 日本フランス語フランス文学会, 2009年, 141-156頁 (学会奨励賞対象論文).</p> <p>⑪論文：「フランス語圏カリブ海域におけるクレオール文学の問題機制」, 『ポストコロニアル批評の諸相』(岩田美喜・竹内拓史編著), 東北大学出版会, 2008年, 233-263頁.</p>
ほかに、こんなジャンルに関心を持っています	<p>①ホラー映画, ドキュメンタリー映画 (特にフェイク・ドキュメンタリー) における物語・語りの構造</p> <p>②実話系怪談小説における物語・語りの構造</p>
こんな授業を行っています	<p>①2022年度春学期：「国際文化研究A」(石森大知先生と田島樹里奈先生が管理運営) 4回分の授業を担当予定。M・フーコーの「作者とは何か」を輪読文献としつつ、文学研究における「作者」と「テキスト」との関係性を概説します。同時に、受講生には自らの研究分野においても、上記の関係性を考えてもらう機会としたい。</p> <p>②2022年度秋学期：「多言語芸術論II」(フランコフォニー文学入門) カリブ海域とケベック州の文学作品に注目しながら、どのように文学が生み出されるのかを概説します。各論においては、使用言語・文体・語り・構造・コンテクストなどに注目しつつ作品分析を行います。</p>
学会や社会でこんな活動をしています	<p>【受賞歴】①日本学術振興会特別研究員PD (2012年～2014年) / ②エミール・オリヴィエ奨学金 (2011年, モントリオール大学) / ③学会奨励賞 (2011年, フランス語フランス文学会)</p> <p>【所属学会・役職】①日本フランス語教育学会 / ②日本ケベック学会: 副会長 (2018年～), 編集委員長 (2016年～2021年) / ③日本フランス語フランス文学会 / ④日本フランス語圏文学研究会</p> <p>【その他の活動など】①集中講義 (2018年, 東北大学) / ②「第10回 フランコフォニーを発見しよう」管理運営 (2018年, 法政大学) / ③「北米文化論 (ケベック講座)」の開講・管理運営 (2018年度～) / ④「東日本および西日本高校生フランス語暗唱コンクール」の課題テキスト選定 (2013年度～)</p>
研究分野の基礎文献を紹介します	<p>①平野千香子『フランス植民地主義の歴史』人文書院, 2002年.</p> <p>②鳥羽美鈴『多様性の中のフランス語』関西学院大学出版会, 2012年.</p> <p>③M・フーコー『フーコー・コレクション 文学・侵犯』(小林康夫他訳) 筑摩書房, 2006年.</p> <p>④P・シャモワゾー『テキサコ 上・下』(星埜守之訳) 平凡社, 1997年.</p> <p>⑤D・ラフェリエール『帰還の謎』(小倉和子訳) 藤原書店, 2011年.</p>